

聖使命よろこびの集い

〈取扱者研修会〉

日 時：令和6年 **7月5日**（金）9:55～12:20（予定）

ご指導：三浦 晃太郎 教化部長 他

開催形態：生長の家千葉県教化部（大拝殿）で開催
Zoomによる配信も行います。
[ZoomID：851 7046 5395 / パスコード：0531]

テキスト：『“新しい文明”を築こう』上巻 基礎篇「運動の基礎」
「聖使命会員の手引き」

参加対象：聖使命会費取扱者

奉納金：300円以上随意

〈主なプログラム〉

- ・活動事例「聖使命会費取扱者としての喜び」
- ・講話「聖使命会費取扱者を讃えて」……三浦晃太郎 教化部長
- ・聖使命会費取り扱いに関する質疑応答
- ・決意発表

「神への献金をするとは
最もすぐれた感謝行である」

谷口清超 先生

（前略）私達の実相ほんとのすがたはすべて神の子でありますから、どうしてもその感謝を具体的な行動にあらわして行かなければならなくなるのであります。（中略）そこで古くから献金ということが神に対して行われていますし、労働力を以て神に奉仕するとか、或は各人の労働をもって得た貴重な金銭や財宝を神に捧げるといふ事が行われて参りました。このようにして、私達が神に対して感謝しているのであるといふ事を具体的な行動に表わしますと、実におどろくべき事には、私達が神に捧げた以上の幾十倍幾百倍かのものが与えかえされて来るのであって、それはこの献納運動をおやりになった方はどなたでも体験なさることです。何故なら、吾々が「神に感謝してじゅういち什一献金を納めよう」といふ「感恩報謝」の心を起しますことによって吾々の心の目が開いて「神の心」があらわれて来るからであります。（中略）それ故人様に「神に対する什一献金」をすすめて歩くといふ事は、単に物施ぶっせを勧請かんじょうすることではなく、「法ほどこすを施す」行為であり、「物を施す」ところの行為にもまさるすぐれた感謝行であると申すことが出来るのであります。

『愛は凡てを癒す』136頁～137頁より